

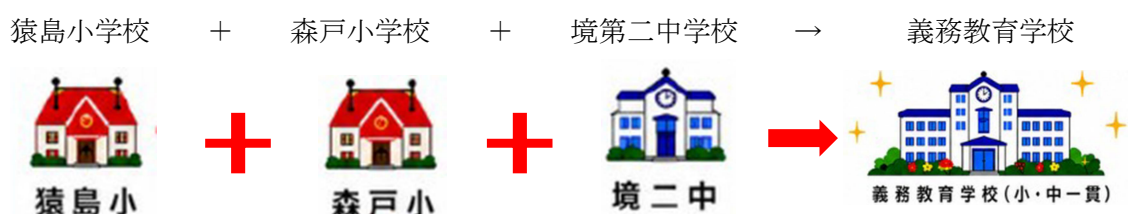
3. 学校再編案について

(1) 見直しのポイントと新しい方針

当初計画では、猿島小学校と森戸小学校及び境第二中学校を統合し、義務教育学校の設立に向け、進めてまいりましたが、近年の資材単価や人件費の上昇による建築コストの高騰により、当初想定していた施設整備費よりも大幅に増加する見込みとなっており、多大な財政負担が懸念される状況となっています。さらに、児童生徒数の将来推計や地域の実情を踏まえ、適正規模の確保と教育環境の質の維持向上の両立を図る観点から、学校再編整備計画の一部について見直しを行う必要が生じてきたところです。

これらを踏まえ、子どもたちに質の高い教育環境を早期に提供することを優先し、新たな方針の第1段階として小学校2校による統合を進めていきます。なお、校舎については、既存の校舎の有効活用を図ります。第2段階として、統合小学校と境第二中学校を統合し、義務教育学校（小・中一貫）の創設を目指します。

【当初案】



【新しい方針】

(第1段階)



(第2段階)



「統合小学校と境二中」を統合し、「義務教育学校（小・中一貫）」を目指します。

(2) 既存校の活用にあたっての比較

統合小学校の設置場所にあたっては、経費抑制のため、現在の校舎活用について検討します。

【2校の共通事項 施設条件】

収容人数 : 2校分の児童を集約できる教室数を確保できる

耐震・老朽化 : 2校とも S53 年建築・耐震化済

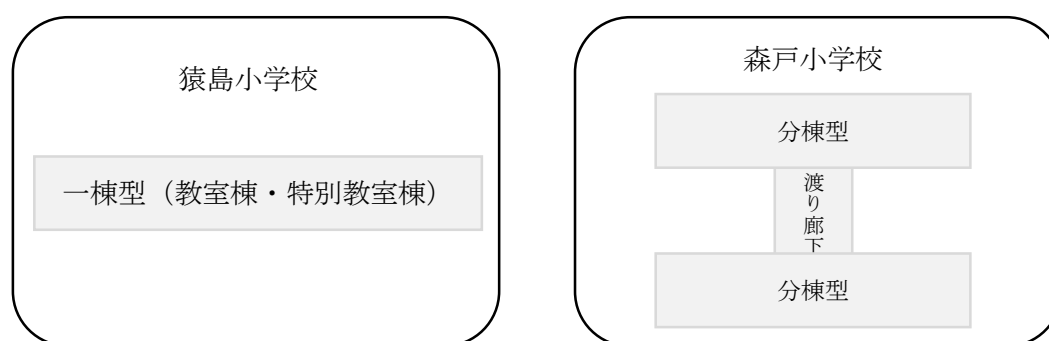
設備の充実度 : 教室・特別教室・体育館等の状態の良さは変わらない

【各校の比較】

①施設の形状（猿島小：一棟型、森戸小：分棟型）

- ・猿島小は、出入口（昇降口）を限定できるため、管理・監視がしやすい
- また、渡り廊下や棟間のスペースがないため、不審者の潜伏する死角が少ない

【猿島小・森戸小の現状配置図】



②立地と安全性の条件

- ・ハザードマップによる浸水想定

猿島小：1 階浸水（0.5m～3m 未満） 森戸小：2 階浸水（3m～5m 未満）

- ・敷地（グラウンド含む）の広さ

猿島小：20,024 m² 森戸小：16,969 m²

③その他

- ・施設設備の状態については、比較的に猿島小の方が良い

項 目		猿島小	森戸小
施設の形状	管理・監視のしやすさ	○	△
立地と安全性	ハザードマップによる浸水想定	○	△
	敷地の広さ	○	△
その他	現施設の状態の良さ	○	△

(3) 学校再編案について

目 的	○猿島小と森戸小の小規模化を解消し、さらに児童生徒の個性や能力を伸ばす教育の充実を図ること
再編案	○第1段階 <u>猿島小と森戸小の小学校2校を統合します。</u> <u>統合後の場所は猿島小とし、現校舎を有効活用します。</u> (理由) 猿島小学校と森戸小学校の統合により、当分の期間は、ほぼ望ましい規模の学校となります。子どもたちに質の高い教育を早期に提供することを優先します。場所選定の理由は、施設の形状、立地と安全性の条件、施設設備の状態等を比較検討し、比較的条件の良い猿島小の校舎を有効活用することができるためです。 ○第2段階 <u>統合小学校と境二中を統合し、義務教育学校（小・中一貫）を目指します。</u>
期待できる教育効果	○第1段階 クラス替えが可能となり、児童にとっては、多様な友達や考え方に触れながら学べる環境が整います。
留意点	○第1段階 ・統合後は、通学距離が長くなる児童が出てくる可能性があるため、通学バスの利用について検討します。